

♪♪♪
土浦平和の会
ニュースNO・100 2001年 1月

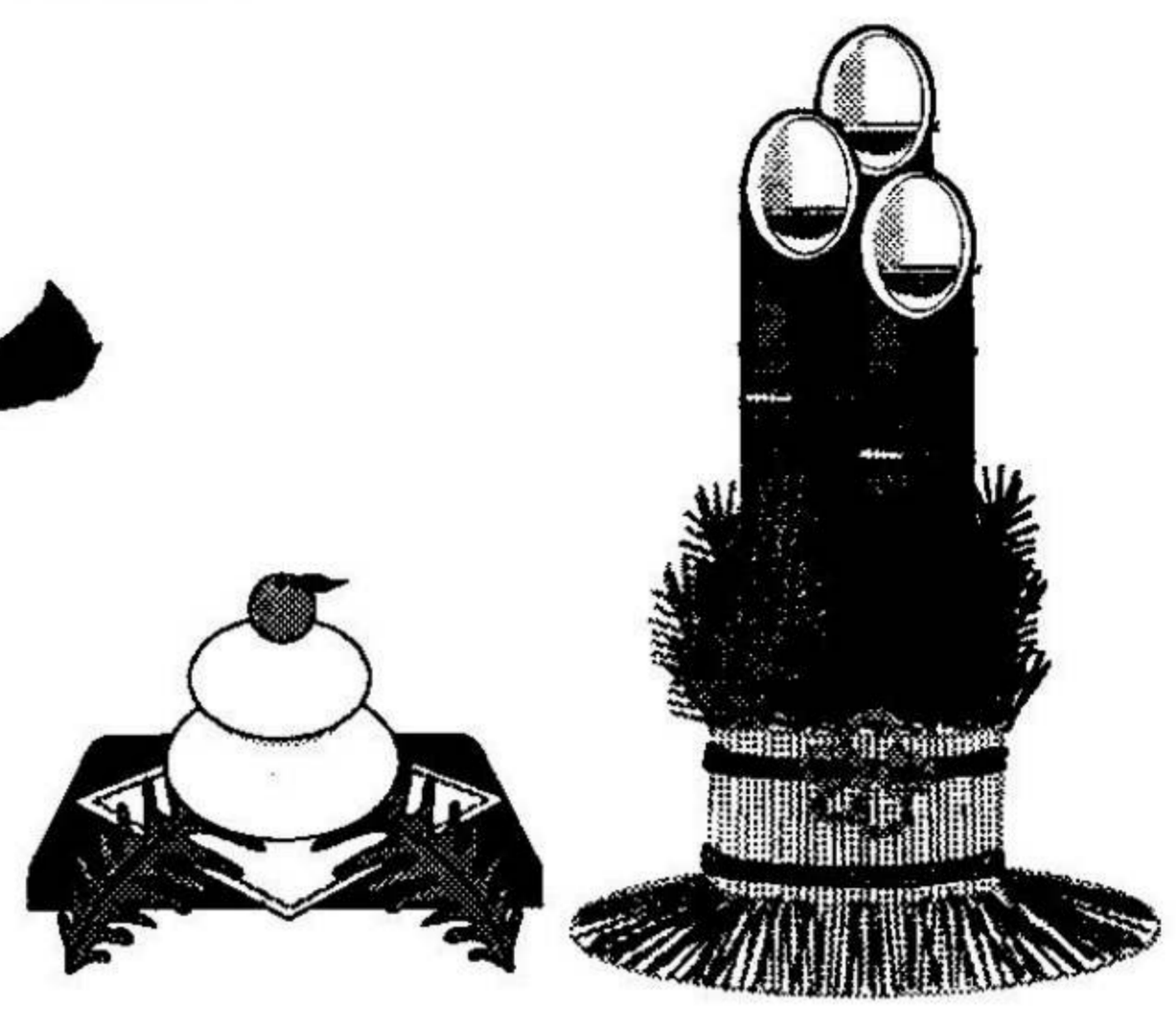
発行 土浦平和の会
事務局 土浦市神立町2664-2
TEL 31-9122

迎春

祝

100号
発行記念

2001年正月



「戦争のできる国」をめざす 教科書を許してはならない

齊藤房雄(代表理事)

いま、「新しい歴史教科書をつくる会」(西尾幹二会長)の「新しい教科書」(中学校歴史・公民)をめぐる問題が重大化しています。

歴史教科書(白表紙本)の内容をみると、「新しい・・・」というふれこみで、近代日本が行った侵略戦争を徹底して賛美し、一方では「南京大虐殺」はなかったように記述し、「従軍慰安婦」には触れないなど侵略と加害の歴史的事実を覆い隠しています。また「神風特攻隊」まで持ち出し、国のために命を投げ出すことを賛美し、神話と歴史的事実を混同させています。さらに昭和天皇を賛美し、「教育勅語」には一頁を費やし、全文を掲載、「これは父母への忠孝や、非常時には国のために尽くす姿勢、近代国家の国民として心得を説いた教養で、各学校で用いられ近代日本人の人格の骨格をなすものとなった」と讃えます。また、1910年の「韓国併合」は「・・・国際関係の原則にのっとり、合法的に行われた」と肯定する記述も見られます。

結局、この内容は、侵略戦争と「国体」(天皇制国家)を肯定し、日本国憲法と教育基本法を否定するものです。

このように、戦前の亡霊みたいな「教科書」がいま文部省検定に申請されているわけですが、ふつうの常識から言えば、こんな危険な内容がそのまま通過するはずはありません。しかし、「・・・つくる会」などの勢力が自民党や右翼と手を組んで文部省に圧力をかけている事実を考えると、予断は許せません。

もうひとつ注意しなければならないのは、彼ら反動勢力の教科書づくりは、彼らがここ数年続けている「戦争のできる国づくりの一環であることです。もう一度子どもたちに戦争する国をめざすことを教えようとする危険な企みにほかなりません。新ガイドライン法(戦争法)制定、憲法明文改悪、「日の丸」「君が代」問題などと一体の動きだけに重大な問題です。

以上、当面の情勢と課題を提起して、新春のご挨拶とさせていただきます。

21世紀幕開け 新春のつどい に行こう 1月28日(日) 14時~17時
赤塚駅北口駅ビル 水戸市福祉ボランティア会館

行事ごよみ

- | | |
|--|-----------------------|
| 1・19 平和の会理事会 (1中地区公民館) | 2・9 平和の会理事会 (1中地区公民館) |
| 1・28 茨城県平和委員会新春のつどい
(水戸市福祉ボランティア会館) | 2・11 百里初午祭り (百里平和公園) |